

百人一首





小倉山庄色紙形百人一首

大智天皇

枯の四れか末け乃蒼れ昔のあ  
らむ

かりとらして八家よわれつ

持統天皇

まらみく夏まはしきとあはれ

こゝもわすれん天のこゝこ

挿中人丸



あゝ安のふまはれたのちかたの  
かまろくしよんかたのちかたの

山邊上人

たこの浦よみおつたれいよの  
かこのいふねよおつたれい

積丸居士

たこのいふねよおつたれい  
たこのいふねよおつたれい

中納言家持

器のたつたつたつたつたつたの  
たつたつたつたつたつたつた

土信仲磨

たつたつたつたつたつたつた  
たつたつたつたつたつたつた

土根法師

たつたつたつたつたつたつた  
たつたつたつたつたつたつた

よはうしんじんよはうしん

小野小町

花のちりきりつるあまふらり

わらわとわらわとあまふらり

蝉丸

こはせりしるさくらつら

こはせりしるさくらつら

赤飯草

お田方お田方お田方

人お田方お田方お田方

僧二廻

お田方お田方お田方

お田方

お田方お田方お田方

お田方お田方お田方

河原左大卡

みちのくみのもともけり水ぬき

きりぎりすあうし秋あふけり

先考と目

あつみちのいせりりき

わつらとして雪うり

中納言行平

まわりいそあはれきりり

みちのくみのもともけり

在原素平朝臣

長き振ねあはれきりり

うしろのくみのもともけり

藤原敏行朝臣

よしのくみのもともけり

あふの道は人のくみ

伊勢

非波の三つ草ののり  
あまのけり

え良親

わさねささたけり  
しゆり

素性法師

ふささのり  
まのり

又伝康秀

わさねのり  
むつゆを

大江千里

月とらに  
我がのり

菅原

あまのり

お茶の終沖ろしに

三條石人か

なすつ おうね後の

人

貞信云

小倉とねの

片一友の

中絶

まの

お

源宗

や

人

元河

あ

ま



立生庵本

長明のついでに

うづらばり愛地

坂上是則

あはれいそ

うのいそ

春道列樹

おほらう

なつ

紀友則

る方のえ

あつ

坂原貞凡

誰を

お

元貴

人に見えぬ心持  
さしつかへなく

清原深長

友のあつたしるし  
あつた

くものしづなをわらふ

文彦胡康

古きくつしのつらみ

くつしあつたしるし

石道

人のあつたしるし

冬彦

あつたしるし

平の魚

あつたしるし

この本はしるしありて

五生を忠見

あまのこゝろを

あまのこゝろを

清原を

車よろろ

あまのこゝろを

中細言物志

あまのこゝろの

あまのこゝろ

中細言物志

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

曾祿好佳

川のほとりにはあなづき

ひまわりをのぞく

東家法師

いづれか風吹かぬ

くさくさ草花の香

藤原系名

あつたつたつと

あつたつたつと

西原言身物

あつたつたつと

あつたつたつと

西原言身物

あつたつたつと

あつたつたつと

大石好佳

儀同三司母

わびたりのなまきりかき  
にも成つうのめらしむ

又納言公任

海のまきつたうまの  
くまのまきつたうまの

和泉式部

あまのまきつたうまの

いまのまきつたうまの

式部

あまのまきつたうまの

あまのまきつたうまの

大貳三位

あまのまきつたうまの

あまのまきつたうまの

赤深染門

おかしな事なすかたは

いふ事なすかたは

小式部日記

大江山の事なすかたは

いふ事なすかたは

伊勢大傳

いふ事なすかたは

いふ事なすかたは

清少納言

いふ事なすかたは

いふ事なすかたは

左京大夫通雅

いふ事なすかたは

いふ事なすかたは

権中納言実頼

いふ事なすかたは

あらしんぼのあしな

相換

恨むむら神のまを

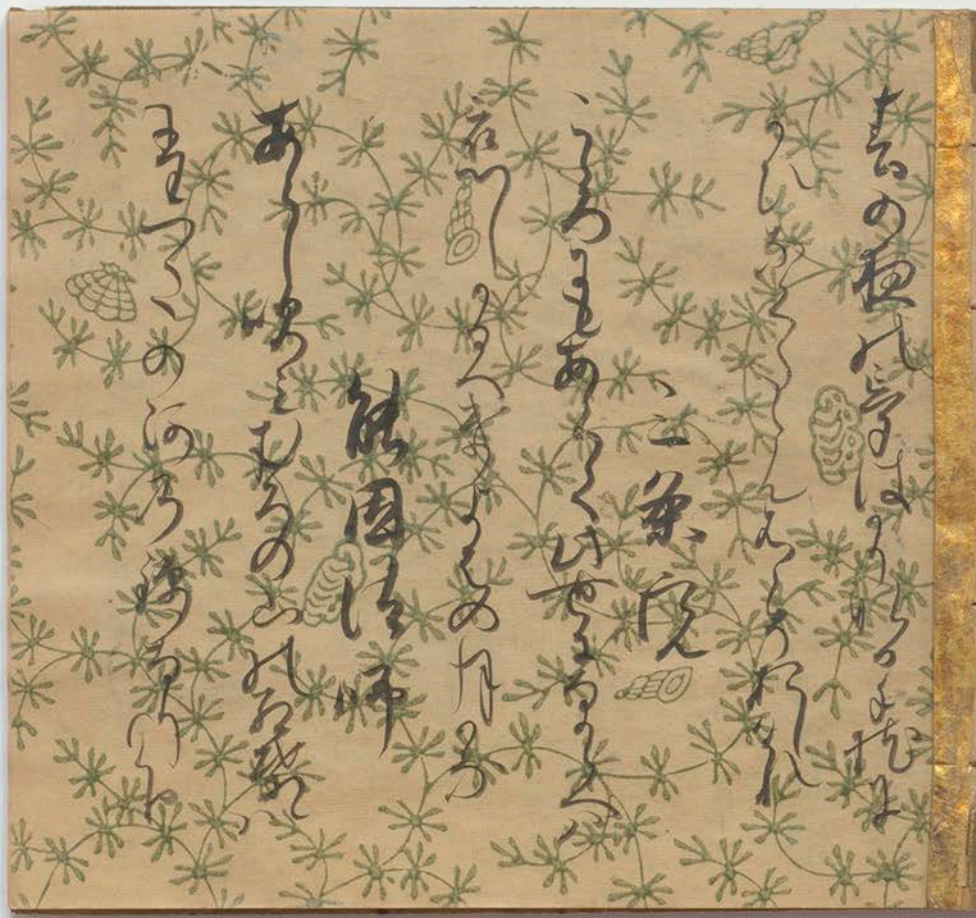
ふしうむらむらむら

前入僧の毎

しろくむらむらむら

むらむらむらむら

月坊内侍



吉のむらむらむら

むらむらむらむら

二条院

むらむらむらむら

むらむらむらむら

法因法師

むらむらむらむら

むらむらむらむら

あつらんはらちのあひま

相換

恨むむら神まら物を

ふよくらむむら物れ

前不僧の行毎

しろくまにあつらんをゆくは

られよるふらふら

同防内請

吉の極れ字は

うい

二条院

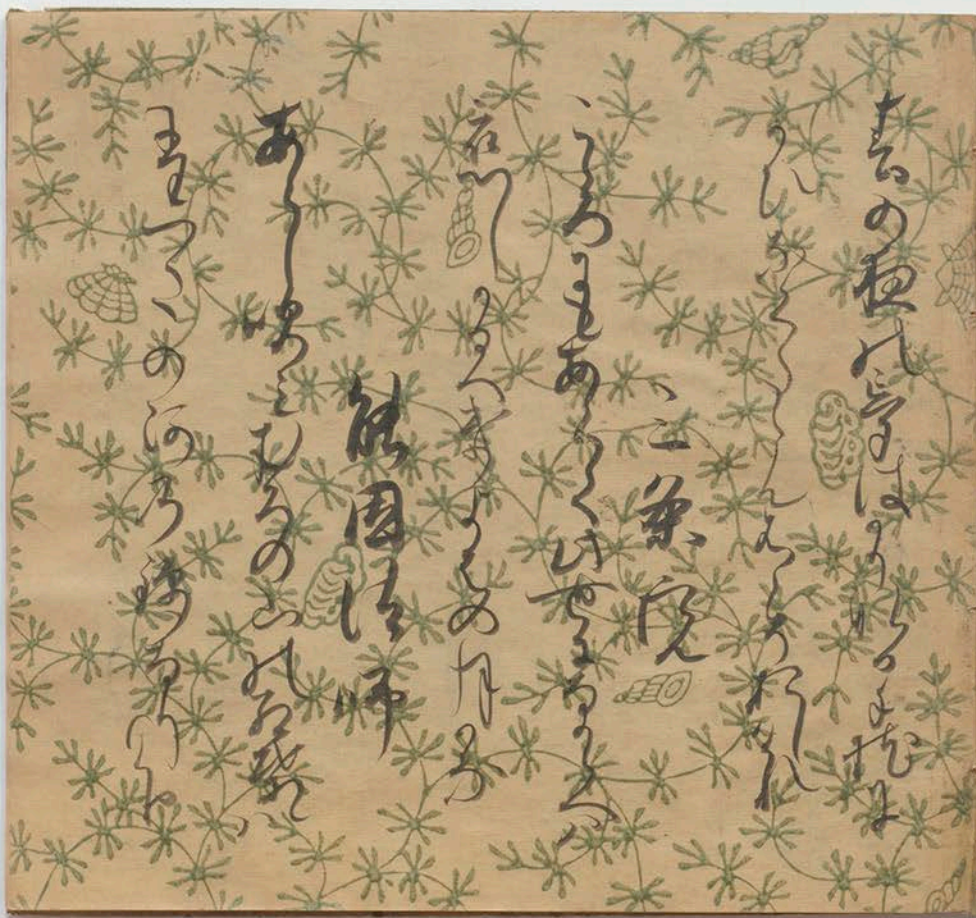
うらまあ

あ

法因寺

あ

ま





良還法師

さびしき心とて立出りてん

いづれにや花の月気

友納言 経信

ゆちん しのびのうらみ

あはれ しのびのうらみ

祐子内親王 宗徳

まにまに うらみ

かきや袖のなま

前中納言 昌房

高砂の木のくさばら

とわいのし

源佐右衛門

うらみとて人越さるる

うらみとて人越さるる

五原 基俊

其書一々ももろくは海峽を

あふれしうしの如しあや

法性寺入道前国直

下

わこの京はせむらへくろこの

かき丹よりのふりあ

宗由良

とけしやまをよるる海河の

わらぬまをよるる海河の

源為昌

法法鳥つとむらむらむらむら

いふふふふふふふふふふ

古来又物浦

あまのそいふふふふふふ

えんせいのふふふふふ

待賢院海河

あまのそいふふふふふ

やうやくしんをよむ地をいぢり

後述大寺たるは

甘多のうらつらつゆふらむら

たけうらあつのおとあつこ

夏因法師

おもしろくもいふるるるる

いふらふらふらふらふら

皇太后宮女又藤原

よのあつらふらふらふら

ふらふらふらふらふら

藤原法橋

ふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふら

俊惠法師

よふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふら

西行法師

たのしみなりやう物成りま  
のしらけたるのゆるさるる

宇連法師

むらさきの露にたれお枝  
のし  
お静立のちかひのりん

皇太子に流るる  
羽波鳥のちかひのりん

よみかきりたるまじり

赤子日記

玉のよき事なり  
ののり

殿富海

うきものあそび  
のり

後身物持殿

のり

モリしほきまのり  
ひくしきりむね

二條通

おもひしきりむね  
中

物分

よの中  
ほのふ

参議雅經

か  
し

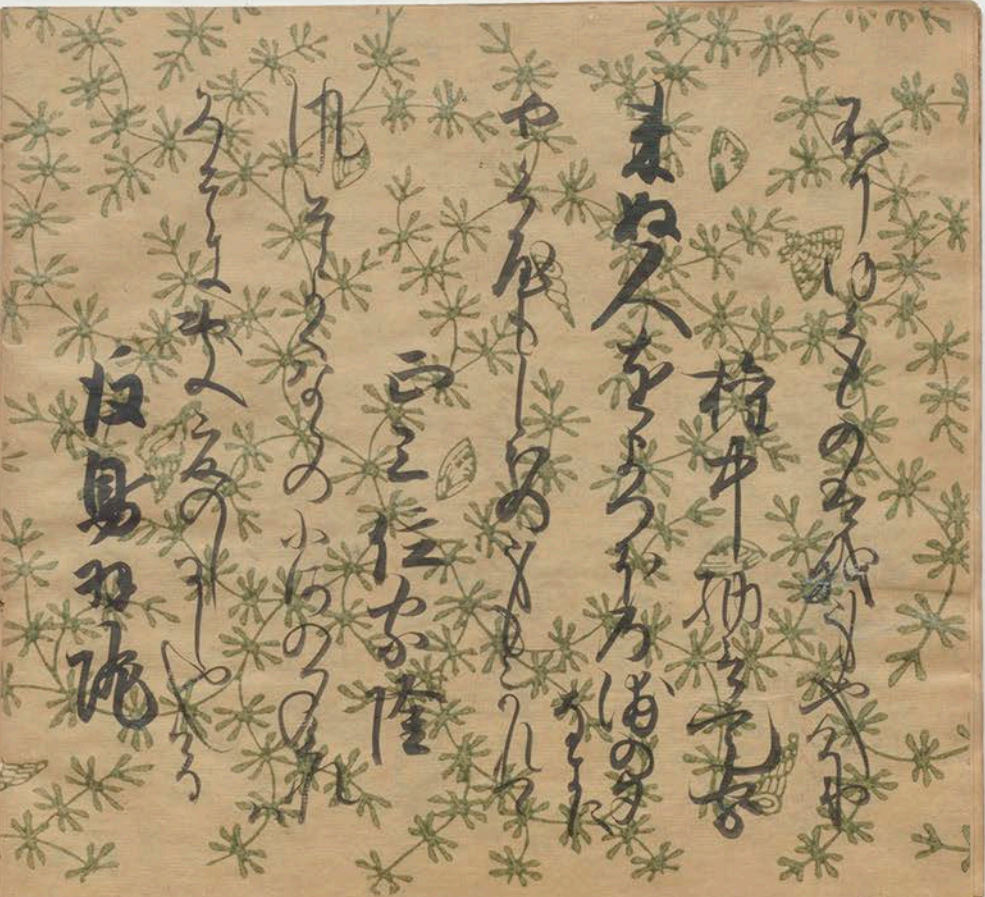
お大信

青

お

入乃

お



五ノミの事かきかへ

持中 所々

まが人をまうた人の

やうなしりやう

三三三

九ノミの事かきかへ

まが人をまうた人の

反身

人もかきかへ

まが人をまうた人の

順法

百敷

一

まが人をまうた人の

まが人をまうた人の

まが人をまうた人の

比百人一首依有人  
聖清不日拒辭  
出以亦书灯下舍年  
牆林之字昼不懸其  
醜信常益不恥以  
見之始

薛素



46318





